

5-11歳の小児421名が新型コロナワクチン 接種後に経験した副反応について

～副反応が気になる方でもワクチン接種を検討してもらうために～

ひらた中央病院・福島県立医科大学放射線健康管理学講座

小橋友理江 / 坪倉正治

帝京大学医学部

吉田誠

本日の内容

1. 概要
2. 石川郡の合同小児ワクチン接種の背景
3. 対象者についての情報など
4. 調査の結果
5. 今後の展望

本日の内容

1. 概要
2. 石川郡の合同小児ワクチン接種の背景
3. 対象者についての情報など
4. 調査の結果
5. 今後の展望

概要

- 5-11歳の小児の2回目の全身の副反応は、大人に比べて起こる割合が少なかったです。
- ほとんどの方が数日以内に副反応が改善しました。
- アレルギー疾患を持つお子様において、全身副反応の頻度は持たないお子様と大きな差はなかったものの、アレルギー疾患の持病の悪化が、約20%のお子様認められ、その症状が継続した方がおられました。

本日の内容

1. 概要
2. 石川郡の合同小児ワクチン接種の背景
3. 対象者についての情報など
4. 調査の結果
5. 今後の展望

石川郡の合同小児ワクチン接種の背景

- 医師確保などの問題や副反応に対する対応の問題を解決するために、石川群内町村の合同のワクチン接種が、4月から6月にかけて行われました。
- 医療法人誠励会、石川郡内の町村、石川郡医師会などの連携のもと行われた合同ワクチン接種は、大人より十分な説明時間を設けたり、無料で保護者が利用できるコールセンターを独自に設けたり、様々な工夫がこらされましたが、その中の一環として、副反応について詳細なフォローや、副反応についての保護者への情報提供が行われました。

背景

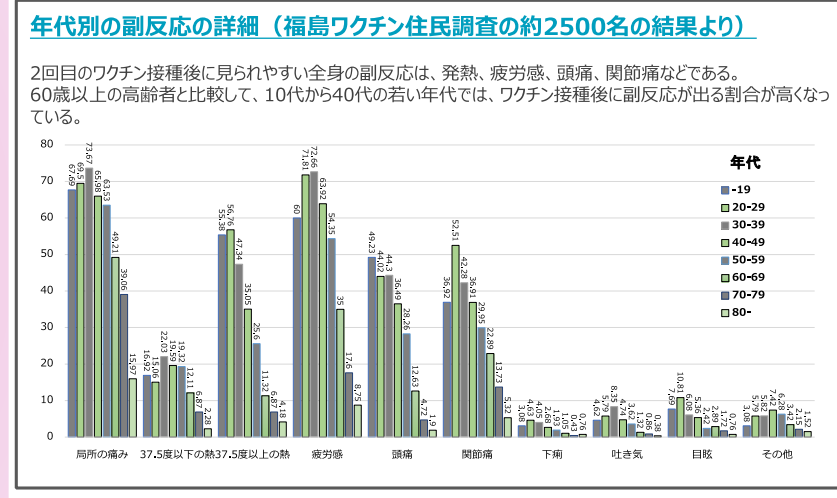


ひらた健康新聞

Vol 2. 発行:2022/3/23
ひらた中央病院
(HP: seireikai.net)
平田村役場

私達は新型コロナに対する感染対策と理解を進める為に、国や行政や医療機関と協力して抗体検査や調査を行っています。

作成:ひらた中央病院医師 小橋



5-11歳では、12-17歳と比較して、副反応がでる割合は少ない可能性がある

5-11歳において、12-17歳と比べて副反応が少ない理由は分かっておりません。

アメリカにおける、ファイザー社製ワクチン接種後の調査では、局所反応は1回目は55%と2回目は58%の人に認められ、全身反応は1回目は35%と2回目は41%の人に認められました。

1回目接種後に多かった副反応は、疲労感(20%)、頭痛(14%)、筋肉痛(7%)で、2回目接種後に多かった副反応は、疲労感(26%)、頭痛(20%)、発熱(13%)でした。

5-11歳においても、ワクチンの有効性は認められた

複数の論文の結果を統合した研究からは、ファイザー社製ワクチンを接種する事によって優位に感染を減らせるという報告がされた。しかし局所の副反応と、全体の副反応は、ワクチン接種によって増える事が示された。

アメリカにおいて、4249人の5-11歳の子どもにファイザー社製ワクチンを接種した後の副反応については、4249人中100件(2.4%)で、特筆すべき副反応が報告された。最も多く報告されたのは、高度な発熱(29人)、嘔吐(21人)、心不全の検査値の上昇(15人)であった。

参考文献：
[https://www.thelancet.com/journals/laninf/article/PIIS1473-3099\(20\)30987-2/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/laninf/article/PIIS1473-3099(20)30987-2/fulltext)
<https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJM2118775>
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC8736274/pdf/mm705152a1.pdf>

副反応についてのアンケート調査を行います。是非ご協力ください。

本日の内容

1. 概要
2. 石川郡の合同小児ワクチン接種の背景
3. 対象者についての情報など
4. 調査の結果
5. 今後の展望

対象者についての情報など

- 2021年4月2日から6月29日の間に、医療法人誠励会で小児のワクチン個別接種を行なった、福島県の平田村、玉川村、石川町、古殿町の5-11歳の男性212名、女性201名の合計413名がアンケートにご協力くださりました。
- 接種後の副反応の経過を記録するために、1回目と2回目のコロナワクチン接種後それぞれ7日間、毎日アンケートを記入していただきました。
- 喘息、花粉症、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーのアレルギー疾患の有無と、副反応の関係を調べました。

対象者についての情報など

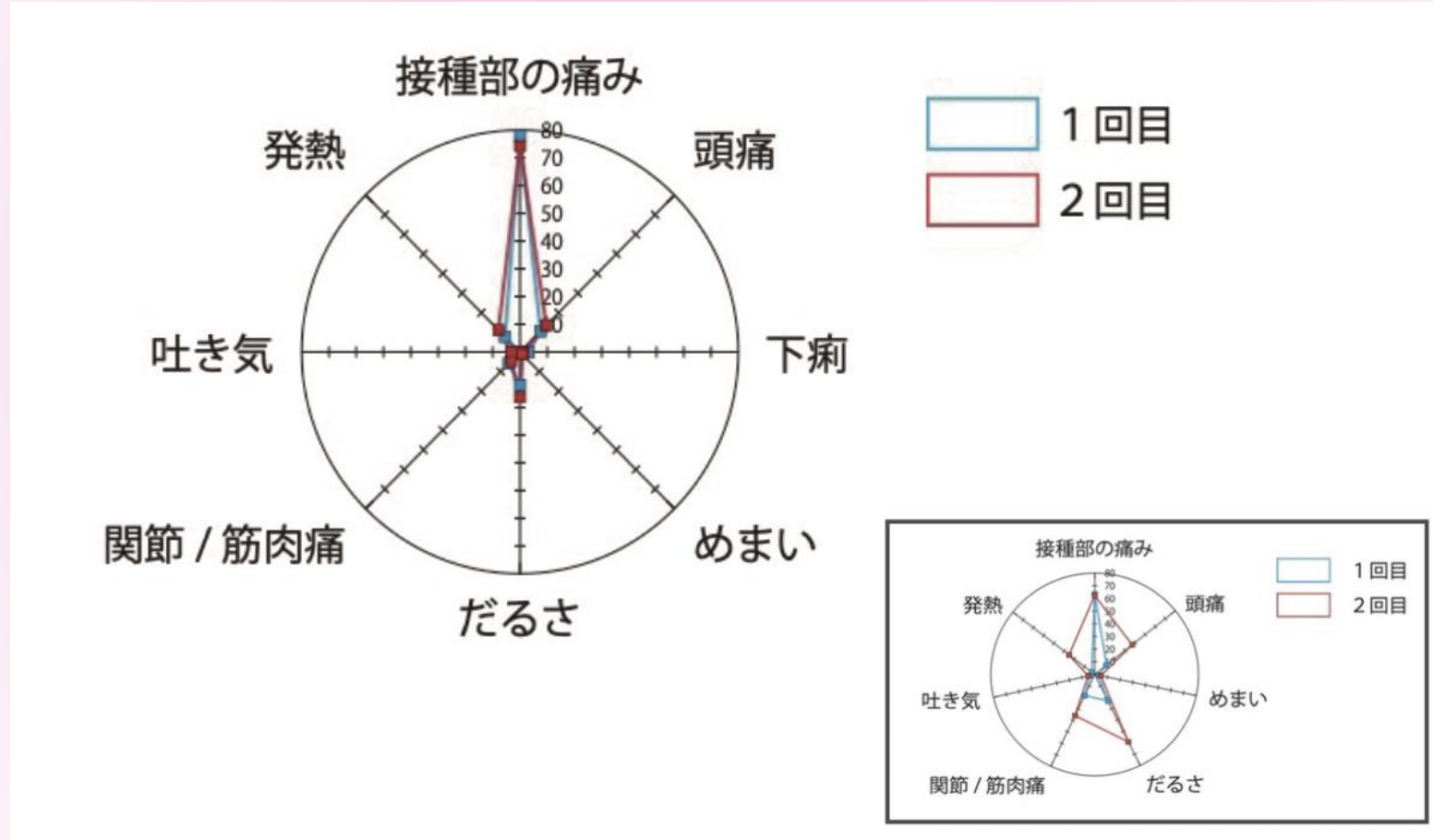
調査にご協力を頂いた方の内、入院が必要な重篤な副反応を経験された方は、おられませんでした。

	男性 人数 (%)	女性 人数 (%)
合計	212	201
年齢 平均値	8.7	8.6
身長 平均値	131.6	133.3
体重 平均値	31.4	30.8
BMI 平均値	17.7	17.2
BCG接種	202 (95.3)	189 (94.0)
現病		
喘息	24 (11.3)	21 (10.4)
花粉症	84 (39.6)	73 (36.3)
アレルギー性鼻炎	40 (18.9)	30 (14.9)
アトピー	21 (9.9)	30 (14.9)
食物アレルギー	6 (2.8)	10 (5.0)

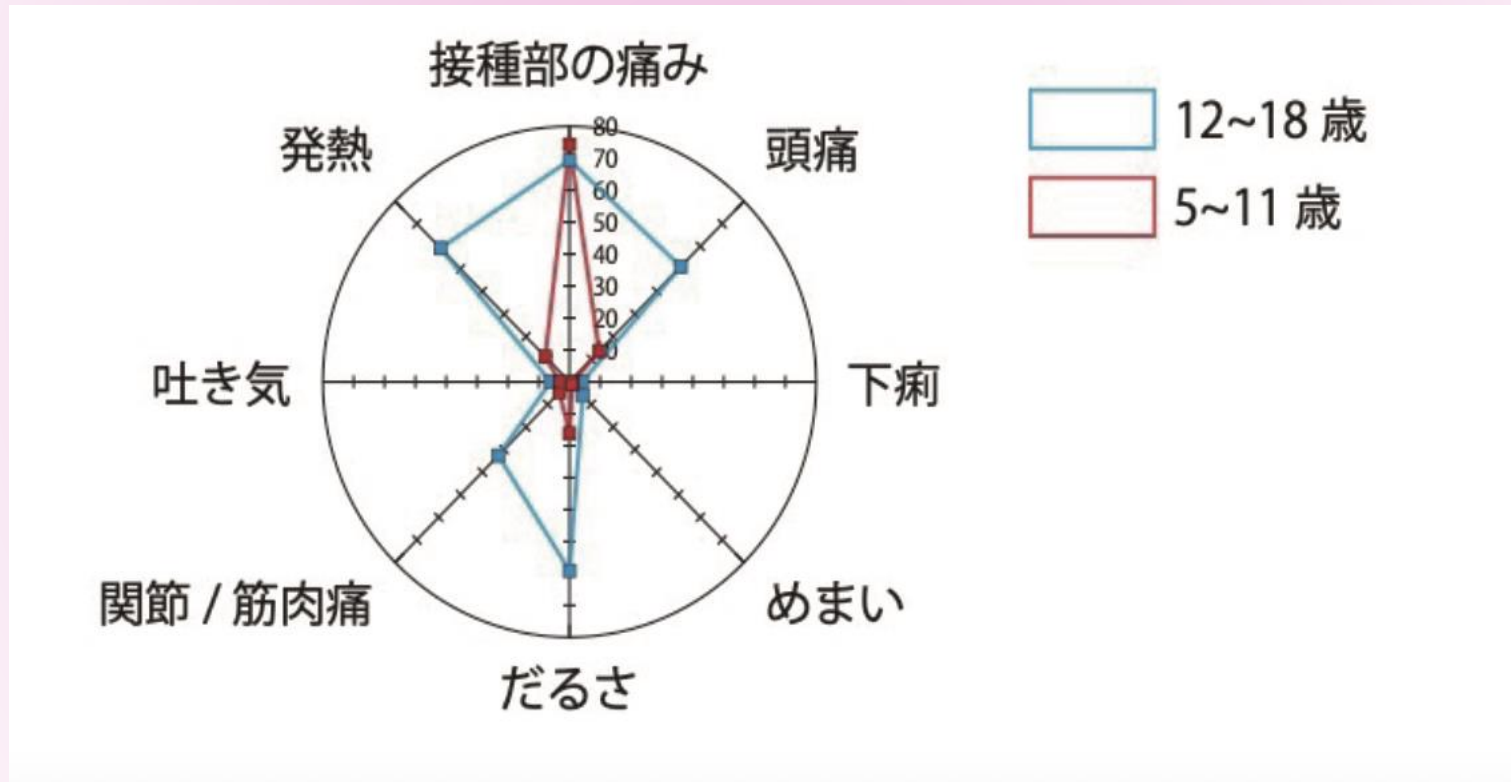
本日の内容

1. 概要
2. 石川郡の合同小児ワクチン接種の背景
3. 対象者についての情報など
4. 調査の結果
5. 今後の展望

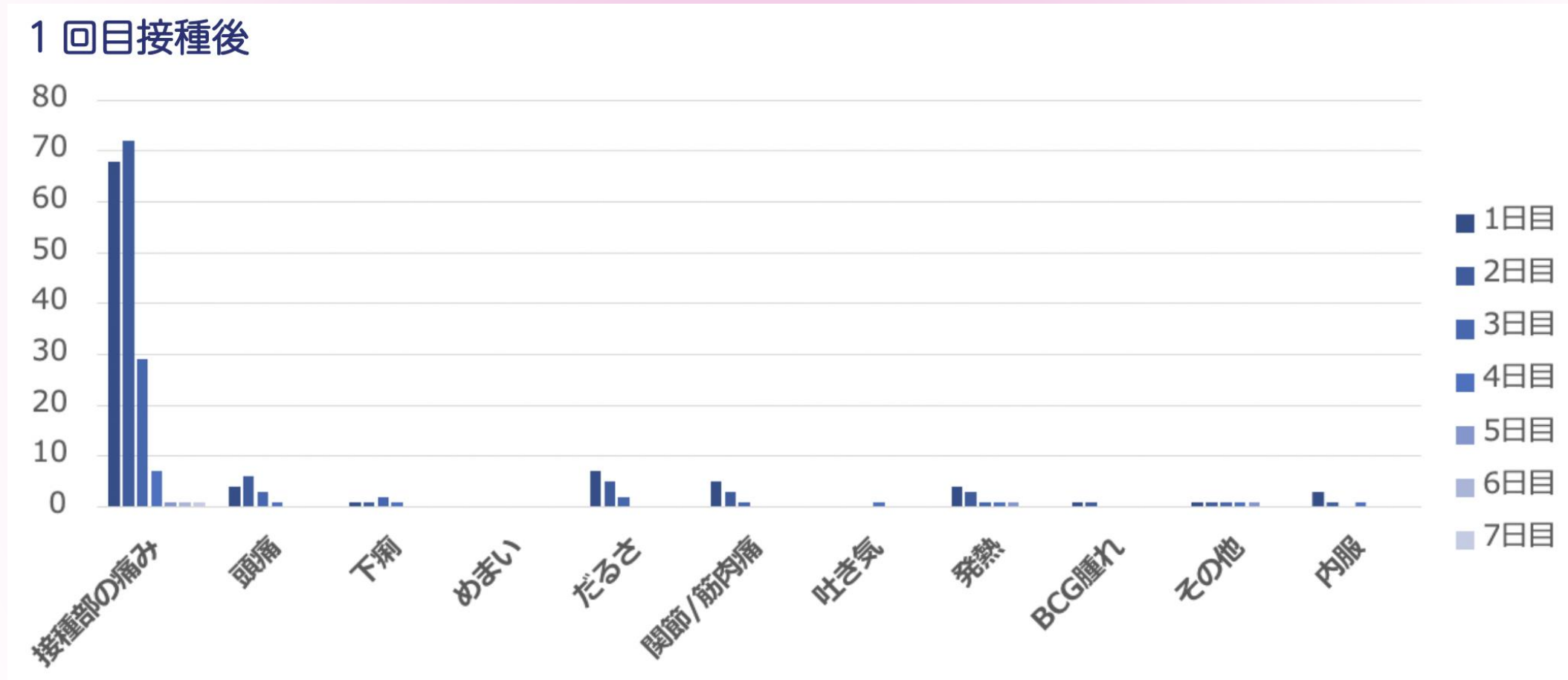
5-11 歳における副反応の有無は、1 回目接種後でも 2 回目接種後でも 大きな差はなかった



2回目のワクチン接種後の5-11歳における副反応は、12-18歳と比較して少なかった

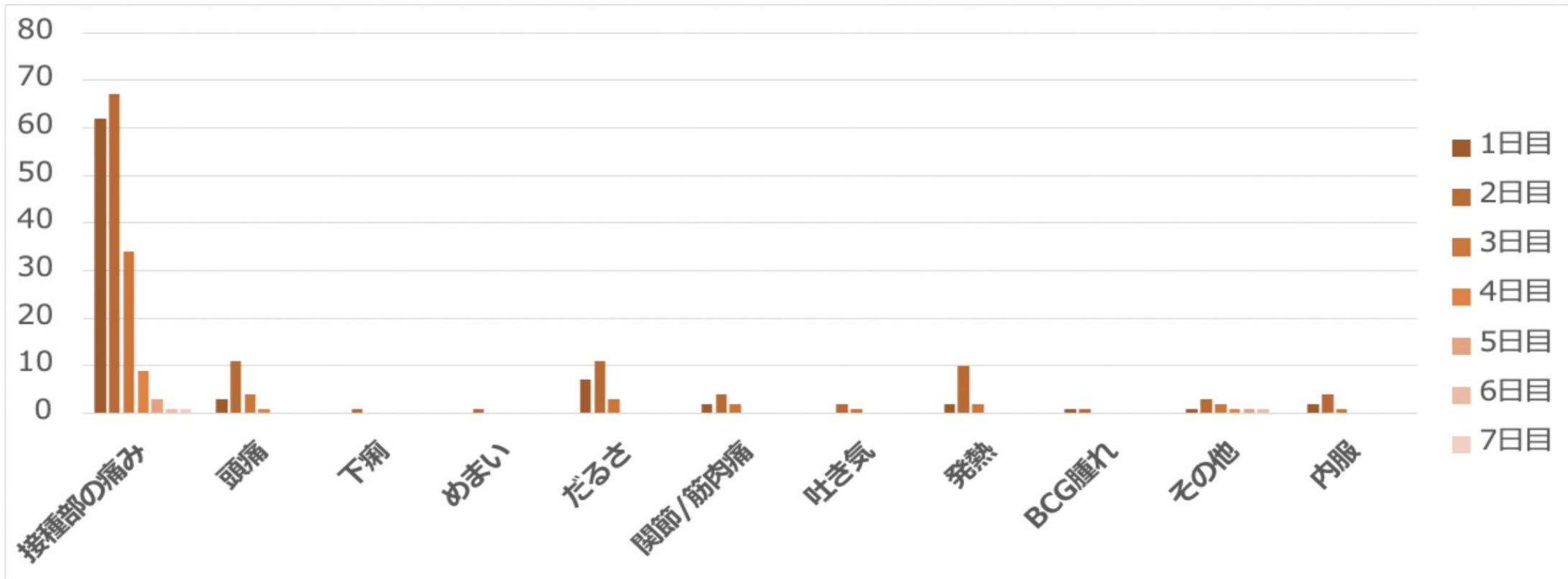


1回目接種後副反応



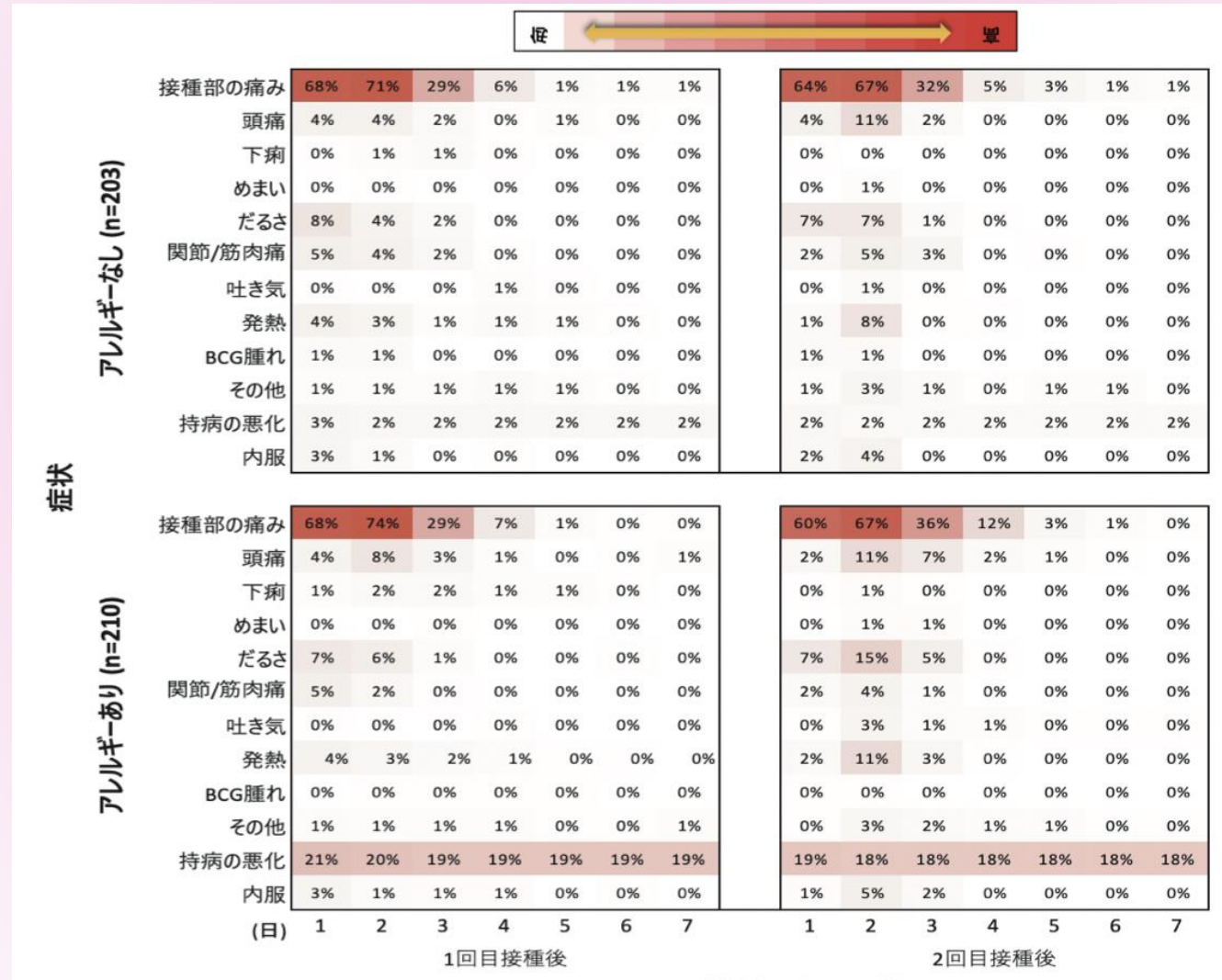
全体の70%程度の方が一回目接種後も二回目接種後も局所の副反応を経験された一方で、各々の全身副反応を経験された方は12%以下であった

2回目接種後



- 男女別の副反応については、女性において頭痛やだるさ、発熱が多少多い傾向にあったものの、ほとんど差は認められませんでした。
- 体重 (30kg 以上と以下) ごとの副反応については、30kg 以下のお子様において多少発熱が多い傾向にあったものの、ほとんど差は認められませんでした。
- アレルギーの有無ごとの副反応については、アレルギーの持病をお持ちの方において、だるさ、発熱が多少多い傾向にあったものの、ほとんど差は認められませんでした。

ワクチン接種後、アレルギーの持病の悪化が、約 20% の方に認められました



本日の内容

1. 概要
2. 石川郡の合同小児ワクチン接種の背景
3. 対象者についての情報など
4. 調査の結果
5. 結語、今後の展望

結語

- 5-11歳の小児の2回目の全身の副反応は、大人に比べて起こる割合が少なかったです。
- ほとんどの方が数日以内に副反応が改善しました。
- アレルギー疾患を持つお子様において、全身副反応の頻度は持たないお子様と大きな差はなかったものの、アレルギー疾患の持病の悪化が、約20%のお子様認められ、その症状が継続しました。

今後の展望

- 小児の新型コロナへの感染は、大きな社会問題となっており、2回目の副反応が大人に比べて少なかった事は、新型コロナのワクチン接種を前向きに考える要因になりうるかもしれません。
- 特に、持病があるお子様は、新型コロナ感染症が重症化する恐れも先行研究から言われており、積極的なワクチン接種が推奨されております。
- しかし、今回の調査によると、アレルギー疾患をお持ちのお子様では、持続する持病の悪化が起こる可能性があり、主治医とワクチン接種の前から、持病が悪化した時の対応についてよくご相談の上、接種を行うと安心かもしれません。

ありがとうございました。

謝辞

誠励会グループの関係者の皆様

石川郡内町村の関係者の皆様

本プロジェクトに多大なご協力を賜りました事を、お礼申し上げます。